



第394号

発行
浄土真宗
心光寺
奥原曇龍
倉敷市早高426
☎(086)420-1311



悔いを残すな



カット：本多 紘子

晩秋の候、霜の降りる季節となってきました。お寺の周りに黄金の稲穂が輝いていましたが、農家の方達が10月半ばにコンバインで一斉に刈り取り、寂しい風景となりました。皆様、お元気でしようか。

今年もあと二カ月余り、アツという間に過ぎ去っていきます。枯れ葉舞う晩秋は、何となく人生の空しさを感じる愚僧です。多くの出逢いと別れのなかで、長年親しく親切にして下さった人との死別は胸をえぐられるような寂しさと悲しみを覚え、真に辛いものです。

10月19日、前日に交通事故にあった「8時だヨ！全員集合」などで活躍したザ・ドリフターズの仲本工事(81)さんが死去し、惜しまれています。1969年から16年間、生放送の「全員集合」はいかりや長介・加藤茶・高木ブー・志村けんさんらとのコンビで、お茶の間のテレビを賑わし、子供たちの心を驚づかみにした一人だったので、突然の死に悲しみ驚く方が多かったです。

平安時代の末期に生きられた鴨長明は、有名な『方丈記』で「ゆく河の流れは絶えずして、しかもこの水にあらず、よどみに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人と栖と、またかくのごとし」とあります。つまり、川

*心の悩み・信仰の相談は月曜日から木曜日の午前中に気楽にお電話下さい。

は涸れることなく、いつも流れている。そのくせ、水はもとの水ではない。淀んだところに浮かぶ水の泡も、あちらで消えたかと思うと、こちらで出来たりして、けっしていつまでもそのままではないという意味です。世間の人も、住居も、あらゆるものがじつと止まっていることは無く、死ぬ人があれば生まれる人があり、家も焼けたり新築されたりして刻々と変化しているが、自分の老いには気がつかないものです。鴨長明も「ああ、私は知らぬ、こうして生まれたり死んだりする人が何処から来て、何処へ消えてゆくのか。誰のためにあくせくとして生活しているのか」と歎かれています。

令和2年1月より流行した新型コロナウイルスの感染が治まらず、世界中の人の流れを規制したり、また物流が停滞して、旅行会社や飲食業・ホテル業に関係する人たちが倒産して生活に喘いでいます。そんななか今年の2月24日にロシアのウクライナ侵攻があり、石油やガス、小麦の輸入品の価格があがり、物価高に悩む人が増えました。アメリカは物価高を抑えるために預金金利を大幅にあげたの対し、日本の預金金利は低いままに抑えられたので、10月20日東京外国為替市場で円が150円台に32年ぶりに下落しました。年金生活をしている人たちにとつて、急激な円安による物価高は辛いものです。世界中の国の人たちが、自分の国さえ良ければと考えたり、自分さえ幸せになれば良いと思う人が増えると、争いは止まず、地獄の世界となります。

「越えなばと思しし峰に来てみれば なお行く先は山地なりけり」という短歌がありますが、このきつい峠さえ越せば楽になると思っていたのに、行く先はまだまだ厳しい山道が続くという歌です。人生というものは死ぬまで悩みや苦しみから解放されないのかな。

昔の仏教徒の人は、安らかに生き、安らかに死んでいくことが幸せだと考えていました。贅沢をせずに、簡素な食べ物や着る服、住まいさえあれば満足し、感謝の日々を過ごす。私たち現代人も、本当の幸せとは何かということを考えてほしいものです。合掌 (奥原 曇龍)

『本当の幸せとは何か考えよう 悔いを残すな人間として』 どんりゆう

日時・十月 七日「金曜日」 午後一時半から四時まで。
『歎異抄(たんにしょう)に学ぶ』
場所・倉敷市早高426 新本堂 電話086-420-1311

ともしび説法



カット：奥原 綾

ともしびを読みたい方、お寺についてもっと知りたい方 [心光寺](#) [倉敷](#) [検索](#)



お釈迦様ものがたり 73

インド第二の強国であった新興のコーサラ国に、お釈迦様は仏教の布教を縁があつて始めますが、困難を極めます。

あるときに、イッチャナンカラというバラモンの村に布教に出た時です。この村は、この国第一のバラモンであるボツカラサーデーの所有であった。彼は多くの弟子を擁して衣食住に極めて贅沢な生活をしていました。

お釈迦様の托鉢の噂を聞いたボツカラサーデーは、さっそく信頼する弟子のアンパッタをつかわし、討論させますが、アンパッタは何の反駁も出来ず、師のもとに帰ります。

ボツカラサーデーは、弟子のふがいなさを歎きながら、自分自身がお釈迦様と対面して問答をかわします。お釈迦様の説法を聞いて「人間らしい生き方や自分とは何ものか」を真剣に見つめながら、生・老・病・死の四つの苦しみを超える考え方や人生観・世界観に感動し、仏教に帰依するに至りました。

この地方における仏教の発展に対して、積極的な貢献したのはスダッタ(給孤独)長者を第一とし、次に東園鹿子母講堂を寄進したヴィーサカでした。彼女は長者富豪である父母がまだ東方アング国のパッディヤ城にいた時に、七歳にしてお釈迦様の説法を聞いて、第一段の聖果を得た、仏教信者であった。

後に一家はコーサラ国に住し、ヴィーサカはそこから舎衛城の豪商ミガラ家の子ブナワツダナに嫁入ります。

彼女はおよそ給孤独長者の建てた宏大な祇園精舎も、次第にその数を増した比丘(僧侶)を収容するには狭くなったためか、さらに舎衛城の郊外に、鹿子母講堂という大きな精舎を建てます。祇園精舎が城の南方にあつたのに対し、鹿子母講堂は東方にあつたので東園と呼ばれた。東園の建設には、祇園精舎の半分強の莫大な費用がかかり、女性として施与第一とせられました。合掌(奥原豊龍)

晩秋にみんなが集う親鸞忌 闇路を照らす仏のともしび 田辺多恵子



10月1日 総代さんたちが仏具みがき

ともしび法話

紅葉の季節となりました。異常だった暑さも遠のき、秋を通り越して冬が一変に来たような感じですが。皆様お元気でですか。お寺では11月3日に秋の法要をお勤めします。総代さん達も何かとお手伝い下さって、皆様のお参りをお待ちしています。心光寺坊守(ぼうもり) 奥原 博子

紅葉散る季節は、何となく寂しい。出逢いがあれば、必ず別れはつきものですが、病氣や事故で親しい人との別れは、本当に辛いものです。それでも、前に向かおう。倉敷市中庄 山下須磨子

人生は峻しい山を登るようなもの。あせらず、あわてず、あきらめずに、自分らしく、ありのままに生きたい。そして力尽きたら、みんなに有り難うと感謝のことば。倉敷市西富井 網本 健二

ロシアのウクライナ侵攻には、驚き悲しんでいます。戦争で人を殺し、英雄扱いは何かが狂っています。戦争や紛争のない世界は、夢の夢かな。でも願いは持ちたい。倉敷市藤戸天城 縄田 君子

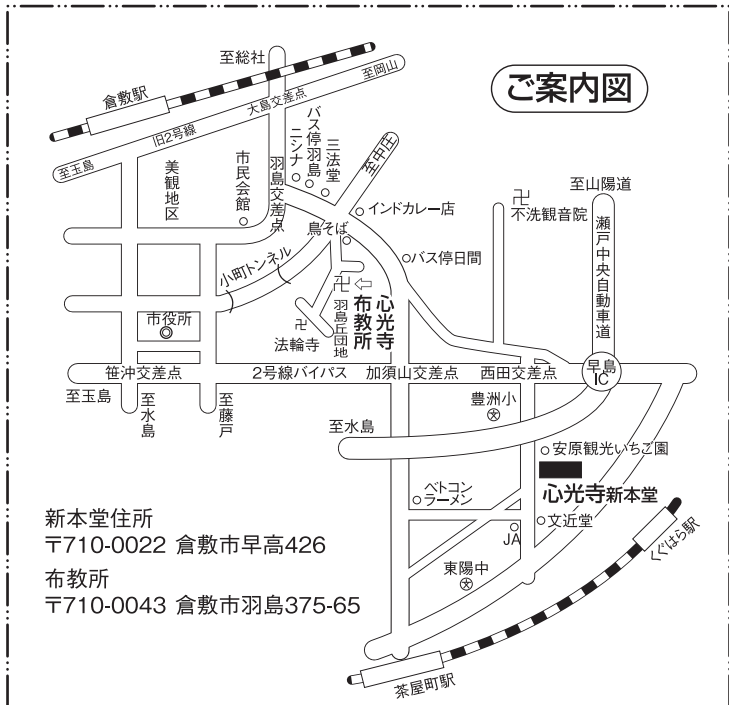
ともしび説法

日時・十一月三日「木曜日」 午後一時から四時頃まで。
場所・倉敷市早高四二六 心光寺(しんこうじ) 本堂にて
電話・(086)420-1311 駐車場有り

○ともしび説法・お寺の行事予定

- 十二月 九日(金)・午後一時半から午後四時・早高の本堂。
- 一月 一日(日)・午後一時半から午後四時・早高の本堂。
- 二月 十六日(木)・午後一時半から午後四時・早高の本堂。

☆ともしび会は、月額五百円の会費制です。(賛助会員募集中)。
ともしび新聞を毎月発行し続けていますが、たくさんの方の費用がかかります。賛助会員になって下さる方があれば嬉しく思います。会員には、ともしびを郵送させていただきます。(お電話下さい)



◎ともしび制作費に御寄付ありがとうございます。倉敷市 荒木昭義様 橋本ナルミ様 5千円

浄土真宗の宗祖は親鸞聖人(しんらんしようにん)です。お葬式の時にあわてて葬儀屋さんを紹介してもらいより、自分でお寺は決めよう。



カット:吉岡美枝

いころの詩

晩秋の別れは寂しい
何故か涙があふれる
西に向かつて夕陽拝めば
ぬくもりのあつた昔を思い出す
ねばり強く温かかった人たちの
のんきで挫けずおごらず
風に舞いながら散っていった



〒710-0022 倉敷市早高426

浄土真宗(じょうどしんしゅう)心光寺
TEL(086)420-1311 FAX 420-1322
携帯電話 (090)-2297-2504

★『ともしび』の毎月発行も、お陰様で「394号」となりました。心光寺は、誰でも気軽に来られる「心の雨宿りのお寺」を目標に頑張っています。11月3日の秋の法要の日には、倉敷駅西ビル横の駐車場に12時10分、茶屋町駅西口に12時30分にお寺より自動車でお迎えに行きます。自動車の送迎が必要な方は、心光寺までご連絡下さい。合掌 心光寺 総代長 本家豊彦